

DATE OF DEPOSIT

Our File No. 9281/4613  
Client Reference No. S US02147

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of:  
Takeo Suzuki  
Serial No. To Be Assigned  
Filing Date: Herewith  
For: Television Tuner Which Operates  
At Low Voltage


### SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIORITY DOCUMENT

Mail Stop Patent Application  
Commissioner for Patents  
P.O. Box 1450  
Alexandria, VA 22313-1450

Dear Sir:

Transmitted herewith is a certified copy of priority document Japanese Patent Application No. 2002-230443, filed August 7, 2002 for the above-named U.S. application.

Respectfully submitted,

  
\_\_\_\_\_  
Anthony P. Curtis, Ph.D.  
Registration No. 46,193  
Attorney for Applicant

BRINKS HOFER GILSON & LIONE  
P.O. BOX 10395  
CHICAGO, ILLINOIS 60610  
(312) 321-4200

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日  
Date of Application:

2002年 8月 7日

出 願 番 号  
Application Number:

特願2002-230443

[ ST.10/C ]:

[ JP 2002-230443 ]

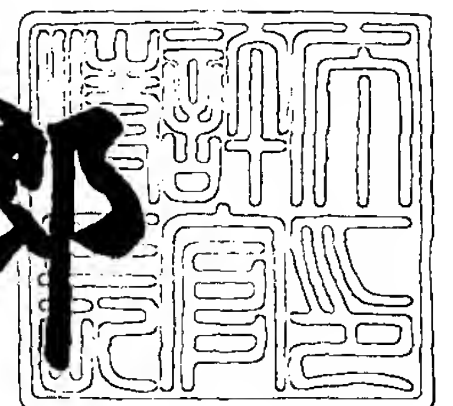
出 願 人  
Applicant(s):

アルプス電気株式会社

2003年 3月24日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3019602

【書類名】 特許願

【整理番号】 S02147

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H03J 5/00

【発明の名称】 テレビジョンチューナ

【請求項の数】 6

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区雪谷大塚町 1 番 7 号 アルプス電気株式会  
社内

【氏名】 鈴木 武男

【特許出願人】

【識別番号】 000010098

【氏名又は名称】 アルプス電気株式会社

【代表者】 片岡 政隆

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 037132

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 テレビジョンチューナ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 所定の受信周波数帯域内のテレビジョン信号に同調する同調回路と、前記テレビジョン信号を増幅する高周波増幅器と、前記テレビジョン信号を中間周波信号に変換する混合器と、前記混合器に局部発振信号を供給する発振部とを備え、前記同調回路をインダクタンス素子と複数の容量素子とから構成すると共に、一つ以上の前記容量素子を選択して前記インダクタンス素子に並列に接続し、少なくとも前記発振部を集積回路内に構成された複数の発振器から構成し、前記集積回路内には前記局部発振信号の周波数を変えるための可変容量素子を前記発振器毎に構成し、受信周波数帯域を複数グループに分割する各グループ毎に前記各発振器を対応させると共に、前記各発振器を前記各グループ内のテレビジョン信号に対応させて発振させたことを特徴とするテレビジョンチューナ。

【請求項 2】 前記集積回路内に前記複数の容量素子と、前記容量素子を選択するためのスイッチとを構成し、前記インダクタンス素子を前記集積回路外に設け、前記集積回路には前記インダクタンス素子を前記容量素子に接続するための端子を設けたことを特徴とする請求項 1 に記載のテレビジョンチューナ。

【請求項 3】 前記容量素子は前記インダクタンス素子に接続された第一の容量素子と、前記スイッチによって選択されると共に前記インダクタンス素子に接続される複数の第二容量素子とから構成したことを特徴とする請求項 2 に記載のテレビジョンチューナ。

【請求項 4】 前記第二の容量素子の第一番目の容量素子の容量値に対して残りの第二番目以降の  $N$  個の容量素子の容量値をそれぞれ  $2N - 1$  倍の関係に設定したことを特徴とする請求項 3 に記載のテレビジョンチューナ。

【請求項 5】 前記高周波増幅器と前記混合器とを前記集積回路内に構成したことを特徴とする請求項 2 又は 3 又は 4 に記載のテレビジョンチューナ。

【請求項 6】 前記同調回路は入力同調回路と段間同調回路とからなり、前記入力同調回路を前記高周波増幅器の前段側に設け、前記段間同調回路を前記高

周波増幅器と前記混合器との間に設けたことを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載のテレビジョンチューナ。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、テレビジョンチューナに関し、特に、可変容量素子に高い電圧を印加することなく受信可能とし、集積回路化によって構成を簡単にしたテレビジョンチューナに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

従来のテレビジョンチューナの標準的な構成は、図 4 に示すように、順に縦続接続された入力同調回路 3 1、高周波増幅器 3 2、段間同調回路 3 3、混合器 3 4 と、混合器 3 4 に局部発振信号を供給する発振器 3 5 と、入力同調回路 3 1 と段間同調回路 3 3 と発振器 3 5 とに同調電圧を印加する PLL 回路 3 6 と、PLL 回路 3 6 に 3 0 ボルト程度の高い電圧を供給する DC-DC コンバータ 3 7 とから構成される。

【 0 0 0 3 】

入力同調回路 3 1 は単同調回路で構成され、内部にインダクタンス素子 3 1 a とバラクタダイオード 3 1 b とを有する。そして、バラクタダイオード 3 1 b に印加されるおよそ 2 ボルトから 2 7 ボルトの同調電圧 TU によって受信すべきいずれかのチャンネルのテレビジョン信号に同調する。上記の同調電圧範囲によって変化する容量値はおよそ 2 p F (ピコファラッド) ~ 2 0 p F である。高周波増幅器 3 2 は同調されたテレビジョン信号を増幅する。段間同調回路 3 3 は複同調回路で構成され、一次同調回路はインダクタンス素子 3 3 a、バラクタダイオード 3 3 b を有し、同様に二次同調回路もインダクタンス素子 3 3 c、バラクタダイオード 3 3 d を有する。段間同調回路 3 3 のバラクタダイオード 3 3 b、3 3 d にも同じ同調電圧 TU が印加されていずれかのチャンネルのテレビジョン信号に同調する。

【 0 0 0 4 】

段間同調回路 3 3 によって選択されたテレビジョン信号は混合器 3 4 に入力され、局部発振信号と混合されて中間周波信号に変換される。よって、局部発振周波数は各同調回路 3 1、3 3 の同調周波数よりも中間周波信号の周波数だけ高い状態で同調周波数に連動する。此がいわゆるトラッキングである。局部発振信号を供給する発振器 3 5 は共振回路を有し、共振回路にはインダクタンス素子 3 5 a とバラクタダイオード 3 5 b とが設けられる。このバラクタダイオード 3 5 b の特性は入力同調回路 3 1 のバラクタダイオード 3 1 b 及び段間同調回路 3 3 のバラクタダイオード 3 3 b、3 3 d と同であり、やはり同じ同調電圧 T U が印加される。

## 【 0 0 0 5 】

上記の同調電圧を供給する P L L 回路 3 6 には 3 0 ボルトの高い電圧が必要であるがその電圧は D C - D C コンバータ 3 7 から供給される。P L L 回路 3 6 及び D C - D C コンバータ 3 7 は同じ集積回路 3 8 内に構成される。D C - D C コンバータ 3 7 は集積回路 3 8 に印加されている 5 ボルト程度の電源電圧 B を倍電圧整流することで高い電圧に昇圧して P L L 回路 3 6 に供給する。そして、P L L 回路 3 6 は入力されたチャンネル選択データに従っておよそ 2 ボルト～2 7 ボルトの範囲の同調電圧 T U を発生する。

## 【 0 0 0 6 】

## 【発明が解決しようとする課題】

しかし、同調電圧用として必要な高い電圧を D C - D C コンバータによって作るとは集積回路の耐圧上の制約があり、しかも、最近はテレビジョンチューナ及びそれに使用する集積回路の電源電圧が低電圧化する傾向にあるので、D C - D C コンバータによって高い電圧を作るとはますます困難となっている。

## 【 0 0 0 7 】

これに対処するには、低い電圧範囲でも容量値が大きく変化するバラクタダイオードを使用することが考えられるが、このようなバラクタダイオードは強電界のテレビジョン信号によって歪みを発生しやすいという問題がある。

## 【 0 0 0 8 】

本発明は、高い電圧を必要とするバラクタダイオードと高い電圧を作る D C -

D C コンバータを使用することなく、低電圧で動作し、内部に可変容量素子を構成した集積回路を用いて簡単にテレビジョンチューナを構成することを目的とする。

#### 【 0 0 0 9 】

##### 【課題を解決するための手段】

本発明は上記の課題解決のため、所定の受信周波数帯域内のテレビジョン信号に同調する同調回路と、前記テレビジョン信号を増幅する高周波増幅器と、前記テレビジョン信号を中間周波信号に変換する混合器と、前記混合器に局部発振信号を供給する発振部とを備え、前記同調回路をインダクタンス素子と複数の容量素子とから構成すると共に、一つ以上の前記容量素子を選択して前記インダクタンス素子に並列に接続し、少なくとも前記発振部を集積回路内に構成された複数の発振器から構成し、前記集積回路内には前記局部発振信号の周波数を変えるための可変容量素子を前記発振器毎に構成し、受信周波数帯域を複数グループに分割する各グループ毎に前記各発振器を対応させると共に、前記各発振器を前記各グループ内のテレビジョン信号に対応させて発振させた。

#### 【 0 0 1 0 】

また、前記集積回路内に前記複数の容量素子と、前記容量素子を選択するためのスイッチとを構成し、前記インダクタンス素子を前記集積回路外に設け、前記集積回路には前記インダクタンス素子を前記容量素子に接続するための端子を設けた。

#### 【 0 0 1 1 】

また、前記容量素子は前記インダクタンス素子に接続された第一の容量素子と、前記スイッチによって選択されると共に前記インダクタンス素子に接続される複数の第二容量素子とから構成した。

#### 【 0 0 1 2 】

また、前記第二の容量素子の第一番目の容量素子の容量値に対して残りの第二番目以降の  $N$  個の容量素子の容量値をそれぞれ  $2 N - 1$  倍の関係に設定した。

#### 【 0 0 1 3 】

また、前記高周波増幅器と前記混合器とを前記集積回路内に構成した。



## 【 0 0 1 4 】

また、前記同調回路は入力同調回路と段間同調回路とからなり、前記入力同調回路を前記高周波増幅器の前段側に設け、前記段間同調回路を前記高周波増幅器と前記混合器との間に設けた。

## 【 0 0 1 5 】

## 【発明の実施の形態】

図 1 は本発明に係わるテレビジョンチューナの構成を示す。まず、テレビジョン信号は入力同調回路 1 に入力される。入力同調回路 1 はインダクタンス素子 L とそれに並列に接続される複数の容量素子 C 0、C 1、C 2、C 3、 $\dots$ 、C n からなる。このうち、インダクタンス素子 L を除いた各容量素子 C 0 ~ C n が集積回路 1 1 内に構成される。インダクタンス素子 L は集積回路 1 1 の端子 1 1 a とグランドとの間に接続されて集積回路 1 1 の外部に配置される。第一の容量素子 C 0 は端子 1 1 a を介してインダクタンス素子 L に並列に接続されている。また、残りの複数の第二の容量素子 C 1 ~ C n はそれぞれに直列接続されたスイッチ S 1 ~ S n を介してインダクタンス素子 L に接続される。スイッチ S 1 ~ S n も集積回路 1 1 内に構成される。そして、端子 1 1 a にテレビジョン信号が入力される。

## 【 0 0 1 6 】

入力同調回路 1 の次段には高周波増幅器 2 が接続され、その次段には段間同調回路 3 が設けられる。高周波増幅器 2 は集積回路 1 1 内に構成される。段間同調回路 3 は複同調回路で構成され、一次同調回路 3 a と二次同調回路 3 b とは同一構成を有する。そして、一次同調回路 3 a はインダクタンス素子 a L とそれに並列に接続される複数の容量素子 a C 0、a C 1、a C 2、a C 3、 $\dots$ 、a C n となり、このうち、インダクタンス素子 a L を除いた各容量素子 a C 0 ~ a C n が集積回路 1 1 内に構成される。インダクタンス素子 a L は集積回路 1 1 の端子 1 1 b とグランドとの間に接続されて集積回路 1 1 の外部に配置される。第一の容量素子 a C 0 は端子 1 1 b を介してインダクタンス素子 a L に並列に接続されている。また、残りの複数の第二の容量素子 a C 1 ~ a C n はそれぞれに直列接続されたスイッチ a S 1 ~ a S n を介してインダクタンス素子 a L に接続される。



スイッチ  $a S 1 \sim a S n$  も集積回路 1 1 内に構成される。

【 0 0 1 7 】

また、二次同調回路 3 b もインダクタンス素子  $b L$  とそれに並列に接続される複数の容量素子  $b C 0$ 、 $b C 1$ 、 $b C 2$ 、 $b C 3$ 、 $b C n$  からなり、このうち、インダクタンス素子  $b L$  を除いた各容量素子  $b C 0 \sim b C n$  が集積回路 1 1 内に構成される。インダクタンス素子  $b L$  は集積回路 1 1 の端子 1 1 c とグランドとの間に接続されて集積回路 1 1 の外部に配置され、一次同調回路 3 a のインダクタンス素子  $a L$  と誘導結合する。よって、一次同調回路 3 a と二次同調回路 3 b との結合状態を調整できる。第一の容量素子  $b C 0$  は端子 1 1 c を介してインダクタンス素子  $b L$  に並列に接続されている。また、残りの複数の第二の容量素子  $b C 1 \sim b C n$  はそれぞれに直列接続されたスイッチ  $b S 1 \sim b S n$  を介してインダクタンス素子  $b L$  に接続される。スイッチ  $b S 1 \sim b S n$  は集積回路 1 1 内に構成される。

【 0 0 1 8 】

以上までの構成において、入力同調回路 1 における各スイッチ  $S 1 \sim S n$  と段間同調回路 3 における一次同調回路 3 a の各スイッチ  $a S 1 \sim a S n$  と二次同調回路 3 b の各スイッチ  $b S 1 \sim b S n$  とはテレビジョン受信機本体部（図示せず）から送られてくるチャンネル選局信号によって開閉制御されるが、対応するスイッチ同士（例えば  $S 1$  と  $a S 1$  と  $b S 1$ ）は互いに連動して同じ開閉状態となる。従って、それぞれのインダクタンス  $L$ 、 $a L$ 、 $b L$  に並列接続される容量素子の組み合わせは  $2 n$  通りとなる。そして、入力同調回路 1、一次同調回路 3 a、二次同調回路 3 b の各インダクタンス素子  $L$ 、 $a L$ 、 $b L$  のインダクタンス値を互いに同一とし、また対応する各容量素子（例えば  $C 0$ 、 $a C 0$ 、 $b C 0$ ）の容量値を互いに同一とすれば、各同調回路の同調周波数も互いに同一となる。

【 0 0 1 9 】

ここで、入力同調回路 1 を代表として各容量素子  $C 0 \sim C n$  間の容量値関係を説明するが、段間同調回路 3（一次同調回路 3 及び二次同調回路 3 b）においても同じ関係となる。なお、各容量素子  $C 0 \sim C n$  の容量値をそれぞれ  $c 0 \sim c n$  とし、 $n = 3$  の場合に付いて説明する。

## 【 0 0 2 0 】

先ず、インダクタンス素子 $L$ と各容量素子 $C_0 \sim C_3$ との接続関係を示すと図2の通りとなる。図2において、0は非接続状態、1は接続状態である。第一の容量素子 $C_0$ は常に接続状態である。また、 $f_0 \sim f_7$ は各接続関係における同調周波数である。そして、インダクタンス素子 $L$ と第一の容量素子 $C_0$ とは受信する周波数帯域の最高チャンネルの周波数( $f_0$ )となるように設定する。

## 【 0 0 2 1 】

次に、テレビジョンチャンネルの周波数間隔は一定( $\Delta f = 6 \text{ MHz}$ )であるので、 $\Delta f = f_0 - f_1 = f_1 - f_2 = f_2 - f_3 = f_3 - f_4 = f_4 - f_5 = f_5 - f_6 = f_6 - f_7 = f_7 - f_8$ となり、第二の容量素子 $C_1 \sim C_n$ における第一番目の容量素子 $C_1$ の容量値 $c_1$ は $c_1 = 2 c_0 \times \Delta f / f_0$ となる。

## 【 0 0 2 2 】

また、近似式を用いれば第二番目の容量素子 $C_2$ 、第三番目の容量素子 $C_3$ の各容量値はそれぞれ $c_2 = 2 \times c_1$ 、 $c_3 = 2 \times c_2 = 2^2 \times c_1$ となる。一般式で表せば $c_n = 2^{n-1} \times c_1$ となる。

$n$ の数が増えれば、以下同様の関係で容量値が決められる。以上の関係で設定した容量値でも受信すべきチャンネルのテレビジョン周波数に大まかに同調することが可能となる。ちなみに $n = 6$ とすれば64のチャンネルのテレビジョン信号に同調することができる。

## 【 0 0 2 3 】

段間同調回路3の次段には混合器4が設けられる。混合器4も集積回路11内に構成される。混合器4の出力端は集積回路11の端子11dに接続される。端子11dには集積回路11の外部に設けられた中間周波同調回路(図示せず)等が接続される。

## 【 0 0 2 4 】

混合器4に局部発振信号を供給する発振部5は複数の発振器5a、5b、...、5m( $m < n$ )からなり、集積回路11内に構成される。各発振器5a $\sim$ 5mはそれぞれ独立しており、選択された一つから局部発振信号が供給される。また、各

発振器 5 a ~ 5 m は同じ構成を有し、例えば、発振器 5 a は図 3 に示すように、発振素子 5 a 1 と、インダクタンス素子 5 a 2 と可変容量素子 5 a 3 とを含む共振回路とからなる。そして、同調電圧 T U が可変容量素子 5 a 3 に印加される。各発振器 5 a ~ 5 m 毎に異なるのは各インダクタンス素子 5 a 2 ~ 5 m 2 のインダクタンス値である。インダクタンス素子 5 a 2 ~ 5 m 2 は例えば集積回路 1 1 内の絶縁層層上に形成されたスパイラル状の導体線路（ここではプレーナ型スパイラルインダクタという）によって構成される。

#### 【 0 0 2 5 】

また、可変容量素子 5 a 3 ~ 5 m 3 は、例えば F E T （電界効果トランジスタ）で構成され、そのドレインとソースとが接続され、ゲートとの間に発生する端子間容量が使用される。例えば、端子間電圧が 0 ボルト ~ 3 ボルトの範囲で変化すると、容量値がおおよそ 0. 3 p F （ピコファラッド）から 0. 5 p F まで約 7 0 % 変化する可変容量素子の実現する。よって、可変容量素子 5 a 3 ~ 5 m 3 には低い同調電圧を印加してもおおよそ 3 0 % の周波数変化が可能である。

#### 【 0 0 2 6 】

そこで、受信するチャンネルの周波数が 1 0 0 M H z 以下と低い場合には一つの発振器で 2 ~ 3 チャンネルの 1 グループ分の局部発振周波数を得ることが可能であり、2 0 0 M H z 前後のチャンネルでは 4 ~ 5 チャンネルの 1 グループ分の局部発振周波数を得ることが可能となる。U H F 帯のテレビジョン信号に対してはそれ以上のチャンネル数をカバーできる。

#### 【 0 0 2 7 】

可変容量素子 5 a 3 ~ 5 m 3 に印加する同調電圧 T U は P L L 回路 6 から出力される。P L L 回路 6 も集積回路 1 1 内に構成されるが、出力する同調電圧 T U は集積回路 1 1 に印加されている 3 乃至 5 ボルトの電源電圧 B をもとにして P L L 回路 6 に入力される選局信号 D によって設定される。

#### 【 0 0 2 8 】

#### 【発明の効果】

本発明は以上説明したように、同調回路をインダクタンス素子と複数の容量素子とから構成すると共に、一つ以上の容量素子を選択してインダクタンス素子に

並列に接続し、少なくとも発振部を集積回路内に構成された複数の発振器から構成し、集積回路内には局部発振信号の周波数を変えるための可変容量素子を発振器毎に構成し、受信周波数帯域を複数グループに分割する各グループ毎に各発振器を対応させると共に、各発振器を各グループ内のテレビジョン信号に対応させて発振させたので、同調回路には同調周波数を変える為の同調電圧が不要となり、また、発振器に印加する同調電圧を低くできるのでDC-DCコンバータも不要となる。従って、テレビジョンチューナを簡単な構成で実現できる。

## 【 0 0 2 9 】

また、集積回路内に複数の容量素子と、容量素子を選択するためのスイッチとを構成し、インダクタンス素子を集積回路外に設け、集積回路にはインダクタンス素子を容量素子に接続するための端子を設けたので、同調回路を複同調回路で構成した場合に結合調整ができる。

## 【 0 0 3 0 】

また、容量素子はインダクタンス素子に接続された第一の容量素子と、スイッチによって選択されると共にインダクタンス素子に接続される複数の第二容量素子とから構成したので、スイッチの開閉制御によって簡単に同調周波数を設定できる。

## 【 0 0 3 1 】

また、第二の容量素子の第一番目の容量素子の容量値に対して残りの第二番目以降のN個の容量素子の容量値をそれぞれ $2N-1$ 倍の関係に設定したので、周波数が等間隔に配置されたテレビジョン信号に同調できる。

## 【 0 0 3 2 】

また、高周波増幅器と混合器とを集積回路内に構成したので、テレビジョンチューナの構成を簡単にできる。

## 【 0 0 3 3 】

また、同調回路は入力同調回路と段間同調回路とからなり、入力同調回路を高周波増幅器の前段側に設け、段間同調回路を高周波増幅器と混合器との間に設けたので、集積回路を使用して標準的なテレビジョンチューナの構成を実現できる。

。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明のテレビジョンチューナの構成を示す回路図である。

【図 2】

本発明のテレビジョンチューナに使用される発振器の回路図である。

【図 3】

本発明のテレビジョンチューナの同調回路における回路素子の接続状態と同調周波数との関係図である。

【図 4】

従来のテレビジョンチューナの構成を示す回路図である

【符号の説明】

- 1 入力同調回路
- 2 高周波増幅器
- L インダクタンス素子
- C 0 第一の容量素子
- C 1 ~ C n 第二の容量素子
- 3 段間同調回路
- 3 a 一次同調回路
- a L インダクタンス素子
- a C 0 第一の容量素子
- a C 1 ~ a C n 第二の容量素子
- 3 b 二次同調回路
- b L インダクタンス素子
- b C 0 第一の容量素子
- b C 1 ~ b C n 第二の容量素子
- 4 混合器
- 5 発振部
- 5 a、5 b、5 c 発振器
- 5 a 1、5 b 1、5 c 1 発振素子

5 a 2、5 b 2、5 c 2 インダクタンス素子

5 a 3 5 b 3、5 c 3 可変容量素子

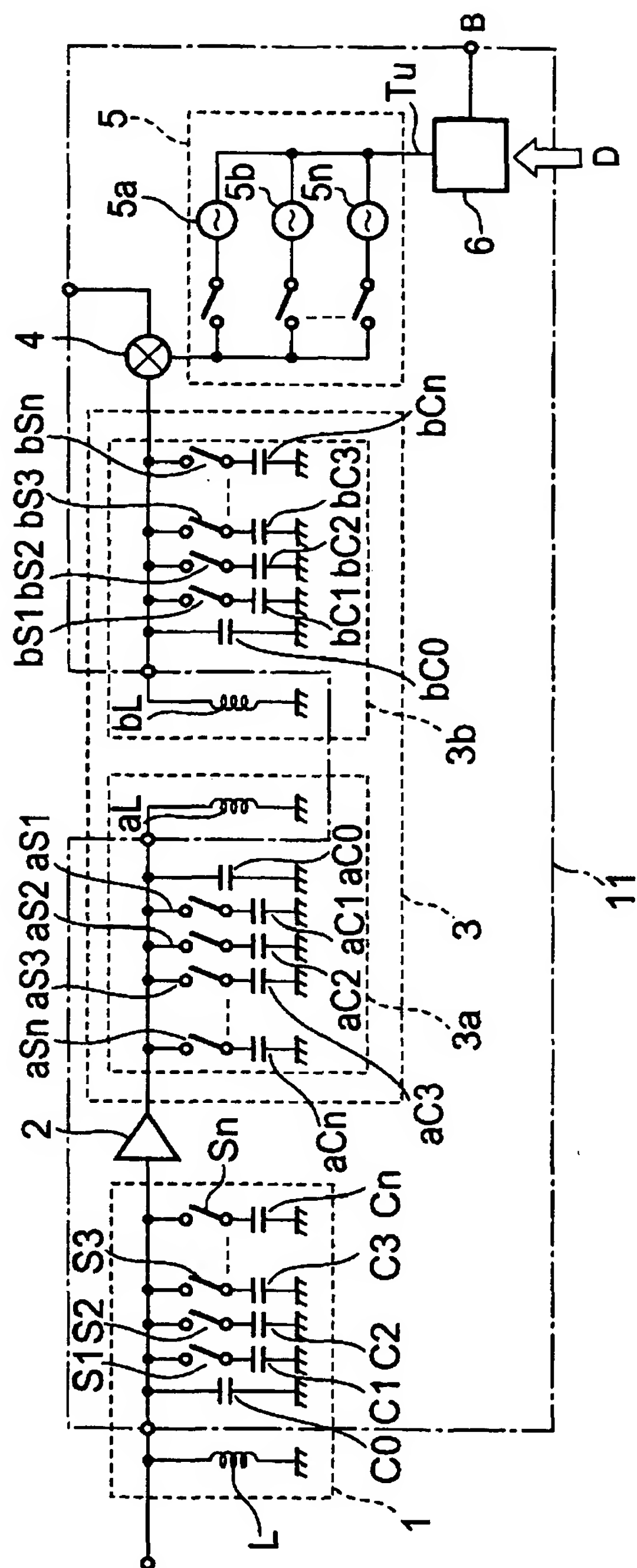
6 P L L回路

1 1 集積回路

1 1 a、1 1 b、1 1 c、1 1 d 端子

【書類名】 図面

【図 1】

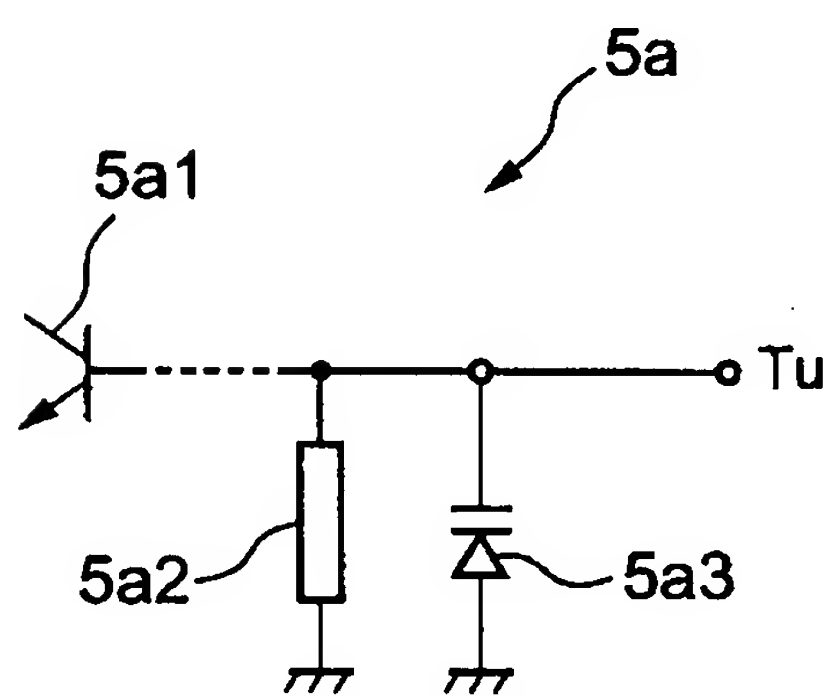




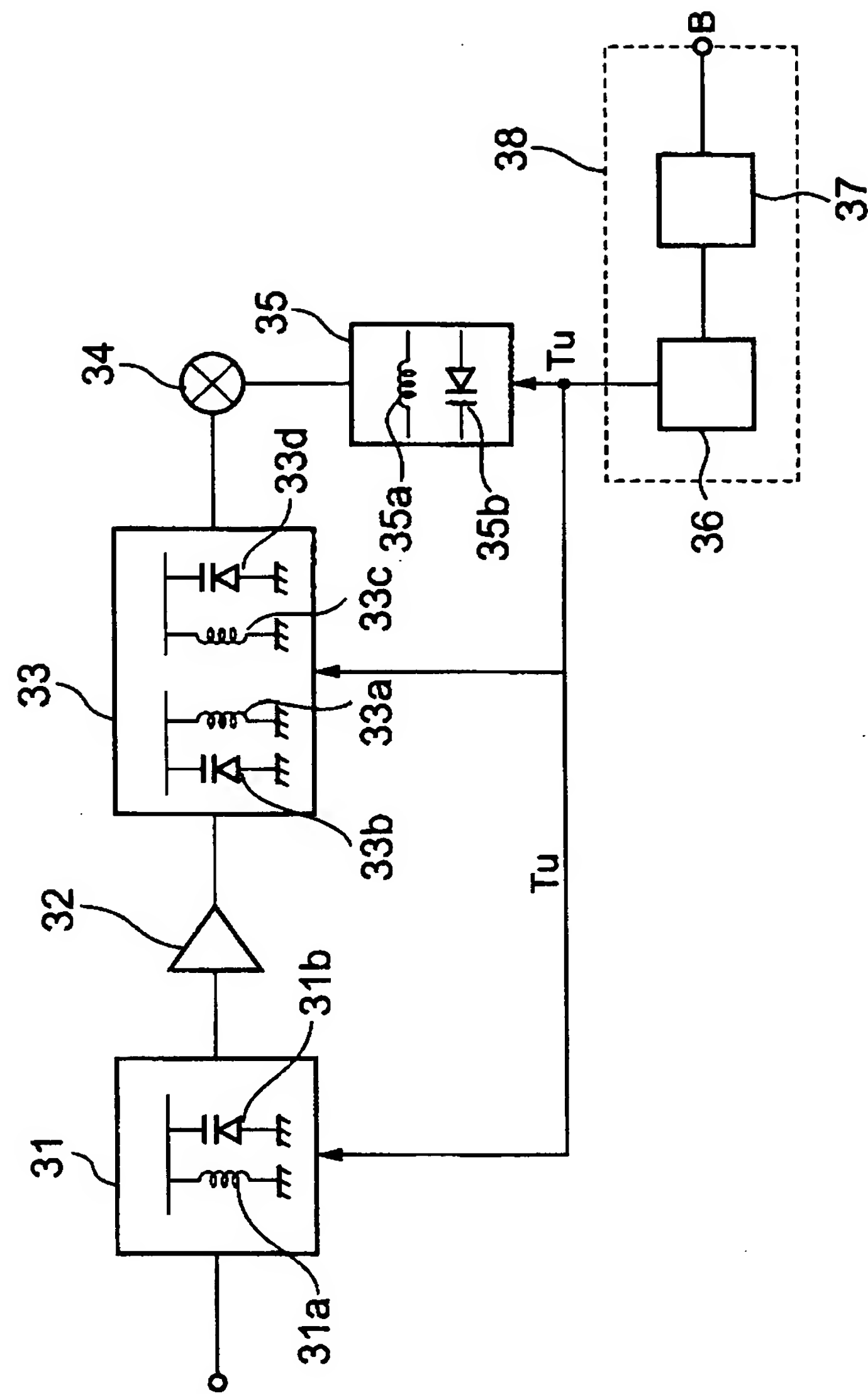
【図 2】

f	C0	C1	C2	C3
f0	1	0	0	0
f1	1	1	0	0
f2	1	0	1	0
f3	1	1	1	0
f4	1	0	0	1
f5	1	1	0	1
f6	1	0	1	1
f7	1	1	1	1

【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 高い電圧を必要とするバラクタダイオードと高い電圧を作るDC-DCコンバータを使用することなく、低電圧で動作し、内部に可変容量素子を構成した集積回路を用いて簡単にテレビジョンチューナを構成する。

【解決手段】 高周波同調回路1と、高周波増幅器2と、混合器4と、発振部5とを備え、高周波同調回路1をインダクタンス素子Lと複数の容量素子C<sub>0</sub>～C<sub>n</sub>とから構成すると共に、一つ以上の容量素子を選択してインダクタンス素子Lに並列に接続し、少なくとも発振部5を集積回路内11に構成された複数の発振器5<sub>a</sub>～5<sub>n</sub>から構成し、集積回路内11には局部発振信号の周波数を変えるための可変容量素子5<sub>a2</sub>～5<sub>n2</sub>を発振器5<sub>a</sub>～5<sub>n</sub>毎に構成し、受信周波数帯域を複数グループに分割する各グループ毎に各発振器5<sub>a</sub>～5<sub>n</sub>を対応させると共に、各発振器5<sub>a</sub>～5<sub>n</sub>を各グループ内のテレビジョン信号に対応させて発振させた。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 2 - 2 3 0 4 4 3
受付番号	5 0 2 0 1 1 7 5 4 0 2
書類名	特許願
担当官	第七担当上席 0 0 9 6
作成日	平成 1 4 年 8 月 8 日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成14年 8月 7日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 1 0 0 9 8 ]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 2 7 日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区雪谷大塚町 1 番 7 号

氏 名 アルプス電気株式会社